

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000067		
法人名	医療法人 誠淳会		
事業所名	グループホーム 新城作手の家 (1号館)		
所在地	愛知県新城市作手田原字道上17-1		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2394000067-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺を緑で囲まれ、落ち着いた環境でゆったりと過ごし頂けています。散歩や家庭菜園などで自然な季節の流れを感じていただける所です。
 施設での生活は、「出来る事はなるべくしていただく」を基本に、職員と共に、掃除や洗濯干し・たたみ等のお手伝いに取り組んでもらっています。また地域の方々からの情報を頂き、お祭りやイベントにも参加させていただいています。野菜などの頂き物も多く、季節の野菜が食事を彩ることも多いです。環境は最大の介護用品と考え、日々一日を無理をせず、ご本人と楽しく、穏やかに過ごしていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気でよかったよ」と馴染みの会話に花が咲く診療所への定期通院は、コロナ禍への医師の配慮で配薬だけの時もあります。「自分で歩けるうちは通院」「歩けなくなったら往診」との方針を持つ赤ひげ先生のほか、事業所には非常勤の看護師とともに歯科衛生士2名が介護職として勤務しており、山間地ながら医療環境が充実しています。ジャズコンサートや、つくで交流館での映画上映、ミニサーカスと外出支援を充実させ、また地域から「ここ通れば足元が危なくないでね」と助言を得つつ、参加の仕方や動き方も心得てきただけにコロナ蔓延は遺憾で、ピエロとの記念写真を眺め、「楽しかったよ」「また行こうね」と終息を心待ちにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を理念に掲げ、理念に基づき活動できるよう心がけています。理念は、事務所に貼りだしたり、作手の家通信に記入し常に目に入るようにして、意識し実践できるようにしています。	理念は事務所に掲示するとともに「新城作手の家通信」にも刷り込み、事業所内外の人の目に触れるよう配しています。「地域の役に立てば～」との想いは、引きこもりだった人の採用など就労支援に反映され、「その人らしく生き生きと～」の実現に一役買っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での雇用はもとより、地域の祭礼や催しにはできるだけ参加しています。日常的には散歩、地域医療受診などを通じて地域の方々と交流しています。	利用者にも話しかけてくださり、「少しみてるよ」と声があがって移乗移動の手伝いがあったりと、大変温かな地域です。「散歩しとるよね。いいねえみんな」と区長からも声が入り、農作業の人から野菜を分けてもらえる日もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	状況によりますが、施設の訪問や、相談に応じています。外出し地域の方たちとの交流時などには、介助や介護の様子を見て頂いたり、お手伝いして頂く事で理解や、支援の仕方を共有しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での話し合いについては議事録を作り施設の玄関にいつでも閲覧できるようにしています。意見はできる限り業務に反映させるようにしています。	コロナ対応については厚生労働省からのメール告知を得て、東三河広域連合へ問い合わせたうえで、3月・5月の運営推進会議は書面開催としています。7月に再開できたときは、メンバーから「大変だけど頑張りましょう」とエールが贈られています。	条例下の取組みのため、資料作成だけでなく「見た(確認した)」との返信とともに意見をもらう仕組みをつくり、書面開催として整備することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の内容を報告し市の担当者に相談やアドバイスを頂いています。頂いたアドバイスを取り入れ、実践できるようにしています。	行政からはコロナ支援としてマスク50枚が2回届き、次亜塩素酸水の無料配布が定期的にあります。新城市並びに地域包括支援センターの窓口訪問に今のところ制限はありませんが、事業所側では訪問を控える配慮をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を年4回実施、具体的に身体拘束にあたらないが好ましくない行為など具体的に職員同士で検討、回避するための介護を実践するようにしています。	身体拘束廃止未実施減算に係る取組みは万全で、3ヶ月に1回の委員会開催も滞りなく実施、不適切ケアなども話し合える場として有効に突っ込んでいます。3要件に係る拘束についても早期解除に向け、「今日は必要、不必要」「精神的にはどうか」をこまめに確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、職員会議などを通じて常に啓発、社内研修にて学ぶ機会を持っています。年に1度はアンケートを実施。虐待に繋がらない介護を鑑みる機会を持つようにしています。法人には虐待根絶に関する窓口もあり、いつでも相談できる体制が整っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については社内での研修で学んでいます。また成年後見人制度を利用されている方もおり、必要性についてはきちんと理解できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	キーパソンの来設時に説明、質疑応答をしています。疑問・不安についてはいつでも対応に応じることを伝えています。改定などは文章を通じて理解を図り、納得の上、契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自己発信できる方からは直に聞いたり、日々の様子や、会話から聞き取り、感じ取り、ご家族来訪時にはご意見を伺うようにしています。可能な限り対応していきます。また玄関に意見箱を設置しています。	もともと面会におけるコミュニケーションを通じて家族との関係を充実させてきた事業所だけに、現在の状況は難儀でもあり、寂しくもあります。それでも利用者本人へ「菓子を～」と寄ったり、玄関先の下草刈を申し出てくださる等家族から関わりを持っていただきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、問題発生時など機会に応じて意見を聞くようにしています。聞き取った意見は、討議し、申し送り帳などを使い周知を図り、業務に反映させています。	職員会議のほか、管理者がマンツーマンで話を聴く機会も設けています。暴言や暴力のある利用者もいて、中には「もうやってられません」と涙ながらに訴えてくる職員もいますが、なんとかもちこたえており、その苦労をチームワークの礎に代えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則を基に就業環境を整備し、実績や勤務状況に応じて、給与や賞与などが反映されています。疑問や困りごとに対して、対応できるよう専用窓口も用意され、サポート体制ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、出来るだけ多くの参加ができるように声をかけています。また外部研修についても、対象者への声掛けや資料を渡しています。シフトの調整など可能な限り協力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会議、法人のエリア会議、などを通じて活動の報告や情報の交換、などを行っている。同エリア内の推進会議にも参加し相互訪問していた。分からない事や疑問に思ったことをエリアマネージャーや、他の施設管理者に相談できる関係ができています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心出来るように、情報を基に対応するように心がけている。雑談や何気ない会話からゆっくり慣れて頂き、信頼関係を築くことに努める声かけをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申し込みに至るまでの地点でご家族の生活や環境などを電話や面談などで聞き取りフェイスシートの作成に役立てたり、ケアプランに反映させたりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りや、生活の様子など事前情報を職員で共有し、出来る事と、支援する事を話し合い入居前の準備をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの一環として、自分で出来ることはして頂くことを基本とし、職員の見守りのもと、役割りを持ち仕事をして頂き、達成感を待っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご本人と家族の交流から、意見や要望聞いて、施設として出来る事、ご家族に協力してもらう事など話し合っています。かかりつけ医以外の受診などは、家族に協力してもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は知人や友人の面会は自由にしていただいていた。現在はコロナウイルス対策のため細かい制限を設け、可能な限りの面会をしていただいています。	コロナ禍ですが、「氏名と間柄の申告(記載)」「検温」「除菌消毒」を以て面会を受け入れています。ただし、中までは遠慮してもらっていて、窓越し又は外のベンチで「距離おく」「マスク装着」に留意し、またこれまではキーパーソンのみでしたが、今後は緩和の方向でいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご夫婦だったり、将棋仲間、ゲーム仲間などそれぞれに気の合った利用者が楽しく過ごせるようにしています。孤立しそうな利用者には職員が声をかけ、レクリエーションや共同作業に誘っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の状況把握を心掛け、ご本人についての相談や、家族の思いなど機会があれば支援できるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を観察し本人思いやの意向を見つかるようにしています。会話や行動から予測し、ご本人の意思を確認しています。うまく伝えられない時は、ご家族に相談したり、表情から読み取るようにしています。	「あの人こんときこう言っとったよ」「あの職員の言い方きついでよ」と、やや告げ口めいた発言も元気の一つとして耳を傾け、また言葉を鵜呑みにせず、「顔をしっかりと見て、目を見てコミュニケーションを図るよう」、管理者が職員に都度伝え、理解を求めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時作成したフェイスシートや家族、関係者からの聞き取り、本人との会話からこれまでの生活歴や暮らし方環境や好みなど情報をえています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を大切に生活していただいています。その日の状態によってできないことは無理強いせず、無理の無い声かけや、促しをし現状を維持できるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、家族の意向、医療の意見などその時に応じて話し合いをしています。必要に応じてケアプランに反映させています。	サービス担当者会議は職員のみで家族を招いてはけません。また介護支援専門員が常勤でないため職員が代わって面会時に確認をおこなっていることから、適切なやりとりが遂行されているかもやや心配されます。またコロナもあって最近1件郵送で処理したものもあります。	次の2点の期待します。①介護支援専門員に代わり計画作成担当者が、窓口としての立場や役割を明確に示していく ②2表のサービス内容の担当者に「家族」が増える
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護詳細記録を毎日記入して状態の把握に努めています。問題や実践結果などは申し送り帳などに記入し情報を共有し、介護計画の作成にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や、受診時などご家族が対応できないときは、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人材との交流などを通じて、行事などへの参加しています。地域の野菜を頂く事があたり、有機野菜を買って食事に出すこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の診療所と連携を図って定期的に受診。細かい日々の情報も電話などで相談することができ緊急時にも協力してもらっています。専門医や市民病院などへの情報提供もスムーズの行う事が出来ています。	17名が診療所を毎月1回受診しています(医師の方針で歩けなくなったら住診)。コロナ禍とあって「薬だけにしておこう」との医師の配慮もあります。認知症のイライラを抑える漢方薬が診療所では配薬されない為、それを求めて1名は家族の付き添いで他院に通っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は看護師に体調管理の状態を確認してもらっています。日頃の気づきや、問題は報告アドバイスを頂き、受診時の付き添いや緊急時の相談のものってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い、情報を伝えています。細かい情報は書面で伝えたり、入院中の様子や、退院に向けての話し合いなどは出来るだけ出向いて対応しています。担当のソーシャルワーカーと連携しご家族の希望のもと、入院前後の相談、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、今後の状態に合わせた対応についての話をご家族としています。ご本人の状態変化に合わせ主治医に相談、家族に報告し、ご本人、家族が安心して頂けるように相談・支援しています。	老衰に近いお見送りがここ2年の間に2例あります。目の前で亡くなったことでショックが大きい職員もいましたが、「最後まで戦ったんだよね」と、折りのカンファレンスを通じて想いを吐露でき、通夜では斎場入口に飾られた事業所での似顔絵に心組み、お別れに結ばれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修を定期的に行い、マニュアルに基づき対応しています。マニュアルは事務所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の避難訓練を年2回実施しています。社内研修を通じ、災害時の問題などを取あげ対応策を議論しています。推進会議などを、通じて地域の様子の把握に努め、施設の状況を伝える事、協力をお願いなどを行っています。	土砂災害危険地域であり、大停電のときは2日間大変な難儀を味わっています。その折の経験が色々活き、備えには余念がありません。訓練では新人が入れるように努め、食糧備蓄3日、ローリングストックを含めると5日分ほどあります。	土砂災害で起こりうることをシミュレーションし、家族に意見を募って(コロナ対応が続く場合はアンケート)有事の判断材料とするよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の研修・職員会議などから学び、実践しています。好ましくない声かけや対応などは職員同士で注意しあって改善するようにしています。	入浴や排泄の介助の際、「肌をみせないようにして欲しい」「人にされて自分がいやなことはやらんでね」ということは職員会議で毎回、繰り返し伝えてします。他にも「全否定からはいらなくて」ということも注視して、言葉の置換の指導も併せておこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の思いを尊重するように努力しています。希望が困難なときは関係者で話し合い、代替えの案をたて選択できるようにしています。表現ができない場合は日々の様子、会話からくみ取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で出来る限り、本人の希望にあわせて生活できるように支援しています。必ず本人に確認をとるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣などの時、声かけし本人が出来る事、したいことを尊重しています。TOPが合っていない時は、提案し快適に過ごしていただけるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を畑で採ったり、見せたりして、食事に興味を持って頂いています。嫌いな食材は事前に嗜好調査や、聞き取りから情報を得て献立に活かしています。季節感のある物、行事食など楽しんで頂けるようにしています。	朝は職員がメニューを考え、畑で採れた南瓜、茄子など旬の野菜も取り入れています。昼と夕は材料と作り方が業者から届きますが、お腹の調子のわるい人がいた場合等差し替えが自在です。1ユニット1名ずつの検食が励行され、特に若い男性職員は顧みる機会としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスは配食センターのバランスを考えた献立にのっとり提供しています。食事は毎回記録し異変がないか確認しています。食事形態も一人ひとり個別対応し、誤嚥などのリスク軽減に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしています。歯科衛生士の資格を持つ職員にアドバイスしてもらい、本人が自分でケアした後、出来ないところを職員が確認しながらブラッシングしています。必要時には往診で口腔ケアをしてもらっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に記録を基に見守り、声かけ、誘導を行っています。本人にあったパンツやパッドなど職員で話し合いし失敗を少なく、快適にいられるように支援しています。	平均介護度2.1と、デイサービス並みの壮健さですが、骨がもろいため圧かけない配慮が必要でトイレでの2人介助が必要な人が1名います。「日中はパットでも夜間は価格の安いものを～」と検討を進めた結果、現在パットは全体で6種類と増えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を心掛けています。便秘時ヨーグルトなどを提供することもあります。必要に応じて医療機関に相談し薬を服用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の入浴ですが、個人の希望に合わせて調整しています。	週3回の入浴では「今日入りたい」「入りたくない」の声で調整して、無理強いないよう配慮しています。夜間入浴は職員の手が足りず無理ですが、他のことは要望に副い、また弱い皮膚に気遣い日本てぬいぐいを使ういととも柚子湯などの季節風呂も提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の様子を見ながら、自由に休息が取れるようにしています。生活のリズムが乱れない適度な休息を支援しています。室温や寝具に注意して見守り支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時には必ず指示、内容、を送り帳に記入している。薬の情報はカルテに綴じてありいつでも閲覧できる。服用までに3回のチェックし服用しています。症状の変化があった時は速やかに医療に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や聞き取り、本人の希望、ケアプランなどを参考に支援しています。散歩に出たり、家庭菜園の世話をされる方、コーヒーやタバコで一服されるかたもいます。将棋やカルタ、トランプなど、誘い合って楽しく参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの散歩などは、職員や家族など関係者付き添いのもと、可能な限り外出しています。コロナ以前は、地域の活動も参加させてもらっていました。	地域行事に精力的に参加していましたが、コロナでことごとく中止となり、しばらくは散歩や外気浴が続きそうです。初夏には梅を皆で洗って氷砂糖に漬けたり、梅ジュースとし、秋になると柚子狩りを経てジャムづくりとする恒例行事はなんとか継続できています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設預かりとなっていますが、能力に応じて自己管理出来る方にははしていただいています。受診時の外出した時など、ジュースなどを買われる方もいます。近所に店舗がないため、職員が代理で買い物をすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話したい」との申し出があれば出来るだけ対応しています。手紙は職員が代理にポストに投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある物を職員とともに作って飾ったり、散歩に出かけて摘んだ野草などを飾っています。	除菌目的の拭き掃除1日2回、換気は午前と午後の2回のほか、いくつか窓を細く開けています。顔見知りばかりで防犯への心配も薄い地域なこともあり、利用者の部屋の窓も開けたままにしている、窓から朝晩鹿の訪問や季節の花々を眺めて愉しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室、ソファ、掘りごたつ、フロア内の自分の席、屋外のベンチなど好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「出来るだけ家で使っていたものを持ってきてください。」とお願いしています。テレビや書籍、携帯など持ち込まれています。家族の写真やレクリエーションで作った物などが飾ってあります。	携帯も自由に持ち込んでもらっています。「こんな服は知らん」という人もいるため、なるべく馴染みのもので環境をつくりたいと考えていますが、「褥瘡ができそうになったり」「下りる位置が分からない」などの症状変化に合わせて都度変更せざるを得ません。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体能力に応じて、家具やベッドなどを配置しています。トイレの位置を表示して誘導しやすいようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000067	
法人名	医療法人 誠淳会	
事業所名	グループホーム 新城作手の家 (2号館)	
所在地	愛知県新城市作手田原字道上17-1	
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日 令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2394000067-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺を緑で囲まれ、落ち着いた環境でゆったりと過ごし頂いています。散歩や家庭菜園などで自然な季節の流れを感じていただける所です。
 施設での生活は、「出来る事はなるべくしていただく」を基本に、職員と共に、掃除や洗濯干し・たたみ等のお手伝いに取り組んでもらっています。また地域の方々からの情報を頂き、お祭りやイベントにも参加させていただいています。野菜などの頂き物も多く、季節の野菜が食事を彩ることも多いです。環境は最大の介護用品と考え、日々一日を無理をせず、ご本人と楽しく、穏やかに過ごしていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気でよかったよ」と馴染みの会話に花が咲く診療所への定期通院は、コロナ禍への医師の配慮で配薬だけの時もあります。「自分で歩けるうちは通院」「歩けなくなったら往診」との方針を持つ赤ひげ先生のほか、事業所には非常勤の看護師とともに歯科衛生士2名が介護職として勤務しており、山間地ながら医療環境が充実しています。ジャズコンサートや、つくで交流館での映画上映、ミニサーカスと外出支援を充実させ、また地域から「ここ通れば足元が危なくないでね」と助言を得つつ、参加の仕方や動き方も心得てきただけにコロナ蔓延は遺憾で、ピエロとの記念写真を眺め、「楽しかったよ」「また行こうね」と終息を心待ちにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を理念に掲げ、理念に基づき活動できるよう心がけています。理念は、事務所に貼りだしたり、作手の家通信に記入し常に目に入るようにして、意識し実践できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での雇用はもとより、地域の祭礼や催しにはできるだけ参加しています。日常的には散歩、地域医療受診などを通じて地域の方々と交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	状況によりますが、施設の訪問や、相談に応じています。外出し地域の方たちとの交流時などには、介助や介護の様子を見て頂いたり、お手伝いして頂く事で理解や、支援の仕方を共有しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での話し合いについては議事録を作り施設の玄関にいつでも閲覧できるようにしています。意見はできる限り業務に反映させるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の内容を報告し市の担当者に相談やアドバイスを頂いています。頂いたアドバイスを取り入れ、実践できるようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を年4回実施、具体的に身体拘束にあたらないが好ましくない行為など具体的に職員同士で検討、回避するための介護を実践するようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、職員会議などを通じて常に啓発、社内研修にて学ぶ機会を持っています。年に1度はアンケートを実施。虐待に繋がらない介護を鑑みる機会を持つようにしています。法人には虐待根絶に関する窓口もあり、いつでも相談できる体制が整っています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については社内での研修で学んでいます。また成年後見人制度を利用されている方もおり、必要性についてはきちんと理解できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	キーパソンの来設時に説明、質疑応答をしています。疑問・不安についてはいつでも対応に応じることを伝えています。改定などは文章を通じて理解を図り、納得の上、契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自己発信できる方からは直に聞いたり、日々の様子や、会話から聞き取り、感じ取り、ご家族来訪時にはご意見を伺うようにしています。可能な限り対応していきます。また玄関に意見箱を設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、問題発生時など機会に応じて意見を聞くようにしています。聞き取った意見は、討議し、申し送り帳などを使い周知を図り、業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則を基に就業環境を整備し、実績や勤務状況に応じて、給与や賞与などが反映されています。疑問や困りごとに対して、対応できるよう専用窓口も用意され、サポート体制ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、出来るだけ多くの参加ができるように声をかけています。また外部研修についても、対象者への声掛けや資料を渡しています。シフトの調整など可能な限り協力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者会議、法人のエリア会議、などを通じて活動の報告や情報の交換、などを行っている。同エリア内の推進会議にも参加し相互訪問していた。分からない事や疑問に思ったことをエリアマネージャーや、他の施設管理者に相談できる関係ができています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心出来るように、情報を基に対応するように心がけている。雑談や何気ない会話からゆっくり慣れて頂き、信頼関係を築くことに努める声かけをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申し込みに至るまでの地点でご家族の生活や環境などを電話や面談などで聞き取りフェイスシートの作成に役立てたり、ケアプランに反映させたりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りや、生活の様子など事前情報を職員で共有し、出来る事と、支援する事を話し合い入居前の準備をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの一環として、自分で出来ることはして頂くことを基本とし、職員の見守りのもと、役割りを持ち仕事をして頂き、達成感を待っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご本人と家族の交流から、意見や要望聞いて、施設として出来る事、ご家族に協力してもらおう事など話し合っています。かかりつけ医以外の受診などは、家族に協力してもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は知人や友人の面会は自由にしていただいていた。現在はコロナウイルス対策のため細かい制限を設け、可能な限りの面会をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご夫婦だったり、将棋仲間、ゲーム仲間などそれぞれに気の合った利用者が楽しく過ごせるようにしています。孤立しそうな利用者には職員が声をかけ、レクリエーションや共同作業に誘っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の状況把握を心掛け、ご本人についての相談や、家族の思いなど機会があれば支援できるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を観察し本人思いやの意向を見つめるようにしています。会話や行動から予測し、ご本人の意思を確認しています。うまく伝えられない時は、ご家族に相談したり、表情から読み取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時作成したフェイスシートや家族、関係者からの聞き取り、本人との会話からこれまでの生活歴や暮らし方環境や好みなど情報をえています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を大切に生活していただいています。その日の状態によってできないことは無理強いせず、無理の無い声かけや、促しをし現状を維持できるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、家族の意向、医療の意見などその時に応じて話し合いをしています。必要に応じてケアプランに反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護詳細記録を毎日記入して状態の把握に努めています。問題や実践結果などは申し送り帳などに記入し情報を共有し、介護計画の作成にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や、受診時などご家族が対応できないときは、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人材との交流などを通じて、行事などへの参加しています。地域の野菜を頂く事があたり、有機野菜を買って食事に出すこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の診療所と連携を図って定期的に受診。細かい日々の情報も電話などで相談することができ緊急時にも協力してもらっています。専門医や市民病院などへの情報提供もスムーズの行う事が出来ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は看護師に体調管理の状態を確認してもらっています。日頃の気づきや、問題は報告アドバイスを頂き、受診時の付き添いや緊急時の相談のものってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い、情報を伝えています。細かい情報は書面で伝えたり、入院中の様子や、退院に向けての話し合いなどは出来るだけ出向いて対応しています。担当のソーシャルワーカーと連携しご家族の希望のもと、入院前後の相談、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、今後の状態に合わせた対応についての話をご家族としています。ご本人の状態変化に合わせ主治医に相談、家族に報告し、ご本人、家族が安心して頂けるように相談・支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修を定期的に行い、マニュアルに基づき対応しています。マニュアルは事務所内に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の避難訓練を年2回実施しています。社内研修を通じ、災害時の問題などを取あげ対応策を議論しています。推進会議などを、通じて地域の様子の把握に努め、施設の状況を伝える事、協力をお願いなどを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の研修・職員会議などから学び、実践しています。好ましくない声かけや対応などは職員同士で注意しあっている改善するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の思いを尊重するように努力しています。希望が困難なときは関係者で話し合い、代替えの案をたて選択できるようにしています。表現ができない場合は日々の様子、会話からくみ取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で出来る限り、本人の希望にあわせて生活できるように支援しています。必ず本人に確認をとるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣などの時、声かけし本人が出来る事、したいことを尊重しています。TOPが合っていない時は、提案し快適に過ごしていただけるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を畑で採ったり、見せたりして、食事に関心を持って頂いています。嫌いな食材は事前に嗜好調査や、聞き取りから情報を得て献立に活かしています。季節感のある物、行事食など楽しんで頂けるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスは配食センターのバランスを考えた献立にのっとり提供しています。食事量は毎回記録し異変がないか確認しています。食事形態も一人ひとり個別対応し、誤嚥などのリスク軽減に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしています。歯科衛生士の資格を持つ職員にアドバイスしてもらい、本人が自分でケアした後、出来ないところを職員が確認しながらブラッシングしています。必要時には往診で口腔ケアをしてもらっています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に記録を基に見守り、声かけ、誘導を行っています。本人にあったパンツやパッドなど職員で話し合いし失敗を少なく、快適にいられるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を心掛けています。便秘時ヨーグルトなどを提供することもあります。必要に応じて医療機関に相談し薬を服用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の入浴ですが、個人の希望に合わせて調整しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の様子を見ながら、自由に休息が取れるようにしています。生活のリズムが乱れない適度な休息を支援しています。室温や寝具に注意して見守り支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時には必ず指示、内容、を送り帳に記入している。薬の情報はカルテに綴じてありいつでも閲覧できる。服用までに3回のチェックし服用しています。症状の変化があった時は速やかに医療に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や聞き取り、本人の希望、ケアプランなどを参考に支援しています。散歩に出たり、家庭菜園の世話をされる方、コーヒーやタバコで一服されるかたもいます。将棋やカルタ、トランプなど、誘い合って楽しく参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの散歩などは、職員や家族など関係者付き添いのもと、可能な限り外出しています。コロナ以前は、地域の活動も参加させてもらっていました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設預かりとなっていますが、能力に応じて自己管理出来る方にはしています。受診時の外出した時など、ジュースなどを買われる方もいます。近所に店舗がないため、職員が代理で買い物をすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話したい」との申し出があれば出来るだけ対応しています。手紙は職員が代理にポストに投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある物を職員とともに作って飾ったり、散歩に出かけて摘んだ野草などを飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室、ソファ、掘りごたつ、フロア内の自分の席、屋外のベンチなど好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「出来るだけ家で使っていたものを持ってきてください。」とお願いしています。テレビや書籍、携帯など持ち込まれています。家族の写真やレクリエーションで作った物などが飾ってあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体能力に応じて、家具やベッドなどを配置しています。トイレの位置を表示して誘導しやすいようにしています。		